

HKFA Technical Report



2022年度 北海道トレセンU-17キャンプレポート

1 概要



【名称】
2022年度 北海道トレセンU-17キャンプ

【期日】
2022年11月8日（火）～11月9日（水）

【会場】
札幌サッカーアミューズメントパーク
東雁来公園サッカー場

【スタッフ】
監督：鈴木貴浩（JFAコーチ）
コーチ：藤代隆介（HKFAコーチ）
コーチ：岡田慎司（U16部会／札幌東高校）
コーチ：蟻川将寛（U16部会／北海高校）
GKコーチ：石井一矢（HKFA GKプロジェクト／北海道大谷室蘭高校）
トレーナー：小島伸介（札幌羊ヶ丘病院）

Pos.	選手氏名	所属	Pos.	選手氏名	所属
GK	小野寺 信	北海	MF	東松 雅也	帯広大谷
GK	イルング侑良	旭川実業	MF	鈴木 大翔	札幌大谷
GK	藤井 樹	札幌創成	MF	山岸 武尊	札幌大谷
DF	庄子 羽流	旭川実業	MF	村本 柊生	札幌創成
DF	鈴木 奏翔	旭川実業	MF	西下 佳寿	北海道大谷室蘭
DF	敦賀 晴紀	旭川実業	MF	田島 健登	北照
DF	笹 修大	札幌大谷	MF	中尾 優太	札幌東
DF	川合 航世	北海	FW	村山 琉依	札幌光星
DF	武笠健次郎	北海	FW	古内 洸太	札幌大谷
MF	百々 楽	旭川実業	FW	野村 光希	北海
MF	高橋眞七斗	旭川実業	FW	田中 準人	北海
MF	片岡 龍音	札幌光星	FW	和嶋 陽佳	旭川実業
MF	坂東 汰晟	駒大苫小牧			

2

活動内容

《1日目AM》

- ガイダンス&レクチャー
- MP・アイスブレイク
- トレーニング
 - ・パス&コントロール
 - ・3vs3+2サーバー
 - ・5vs5+2フリーマン+GK
 - ・7vs7+GK

主に攻撃に関するテーマでトレーニング。攻撃面の特にパススピードについての基準が示された。5vs5+2F以降はゴールに迫っていく際の狙いについてトレーニングを行った。

《1日目PM》

- ミーティング
- トレーニング
 - ・パス&コントロール
 - ・5vs5vs5
 - ・11vs11

(ピッチサイズを変化させて2種類)

主に守備に関するテーマでトレーニング。強度及び狙いを共有して奪いに行くことについて基準が示された。11vs11では縦横のスライドだけではなくピッチが広くなることに対して様々な対応を求められた。

《2日目AM》

- セルフコンディショニング
- ミーティング
- MP&W-up
- トレーニングマッチ 北海道U-17 vs 北海道教育大学岩見沢校
- C-down
- クロージング

全員を前半組と後半組に分けてトレーニングマッチに臨んだ。前日に示された基準をミーティングで再確認しつつもセットプレーの役割は選手同士で話し合うなど、主体性も求められた。



3

活動の総括

参加選手は個々に置かれている状況やコンディションが異なる中、意欲的に参加してくれました。また、スタッフの話を真剣に聞き、ピッチ上では提示された基準でプレーしようとハードワークしていました。

ピッチに出ると同時に、選手自らムーブメントプレパレーションに取り組むなどセルフコンディショニングの意識が高く所属チームの日常のご指導の賜物と感じています。

2日目の大学生とのトレーニングマッチでは、質も強度も上回り勝つことを目標としていましたが、残念ながら1-3で負けてしまいました。好展開の時間帯もあったものの、全体としては攻撃の停滞と組織的な守備ができなかったことが敗因でした。

攻撃が停滞した理由は、同サイドでの攻撃に固執し、相手を観て攻撃を構築できなかったこと、ソコで突破を図る選手に対して別の選択肢を用意できなかったことであり、個々にオンザボールのテクニックの質は高いものの、相手を見て攻撃を構築することができず、相手の密集するエリアに突入していってしまうことが課題として挙げられました。

また、組織的にボールを奪う守備ができなかった理由はアプローチが単発なため奪い所を作れなかったことが挙げられます。状況が劣勢になっていく中、リーダーシップを取って「行くな」「寄せる」と声を上げる選手がいなく、皆が黙々と頑張り続けてしまいコミュニケーションの面に課題を感じました。

4 GK

3名のGPが参加し、GPトレーニングやTMでの試合出場時間はそれぞれ短い時間ではありましたが、FPと共にトレーニングする中で、ボールを奪う、ゴールを守る、攻撃に積極的に関わることを意識して取り組みました。

シュートストップに関しては、ゴール前の状況認知・予測・判断・ポジショニング・基本姿勢などアラートな状態を作り続け、鋭いシュートも止める場面が多くありました。一方で、ゴール前が複雑な状況になると状況認知の遅れから、ポジショニング修正や構えるタイミングが遅れてしまう場面も見られました。ブレイクアウェイに関しては、ボール状況に合わせたポジショニングと思い切りの良いブロッキングやフロントダイビングでPA内を幅広くカバーしていましたが、PA外での処理では出る・出ないの判断の迷いからDFへのコーチングが遅れ、ビルドアップできる場面もクリアしてしまっていました。クロスに関しては、流れの中でもアラートな状態を作って積極的にチャレンジしましたが、ワンタッチシュートに対して構えきれずに見送ってしまう場面がありました。攻撃面に関しては、観る・サポートの距離や角度を意識して選択肢を持ち続けたり、味方の状況や試合の流れを察知してクイックスタートとスロースタートを使い分けたり、広い視野を持って関わり続けていたのは良かったと思います。ロングキックやボレーキック、非利き足のキックの質が高まると、より選択肢を持って攻撃に関わることができると感じました。

今後は、コーチングで味方に「良い準備」をさせながら、攻守の両面でより質の高い準備を行い、スピードやインテンシティがある中でも良いパフォーマンスができることが課題です。

5 おわりに

選手が所属するチームによって事情が異なる中、感染対策を徹底しつつ参加してくれた選手と、快く選手を送り出して下さった保護者様及び所属チーム代表の皆様、心より感謝申し上げます。また、平日の日中にも関わらずトレーニングマッチを引き受けて下さった北海道教育大学岩見沢校の皆様、本当にありがとうございました。昨年度から日程が1日少なくなるなど規模が縮小されている本事業ですが、参加選手の将来に資する活動にするべく、スタッフ一同繰り返し打ち合わせを行い、計画してきました。この事業で得られた刺激や成果を、北海道中の選手や指導者に還元していけるよう、次年度以降も実施形態を吟味し、計画していこうと思います。本事業に関わってくださった全ての方々に重ねてお礼申し上げます。



文責
HKFA U-16
岡田 慎司